今月の読み物

「ウッドトランスフォームシステムコンペティション審査会報告」

株式会社長谷川萬治商店
副社長　長谷川　泰治

月報の平成30年10月号でご紹介した日本木材青壮年団体連合会（以下略称「日本木青連」）主催『ウッドトランスフォームシステムコンペティション』の最終審査会が平成31年３月１日に木材会館６階小ホールにて開催されました。

ウッドトランスフォームシステムとは、日常生活で人々の役に立つものとして利用されながらも、災害発生時にはトランスフォームし、被災者の避難所生活や復旧活動を支援する木造のシステム製品です。例えば、木製ベンチが仮設トイレに、木製フェンスが応急仮設小屋に、木製カウンターが仮設風呂に、木製遊具が二段ベッドに、と普段便利に使っているものが災害時にトランスフォームして避難所生活の質の向上や復旧活動を支援するもので、木材利用の可能性を拡大するだけではなく、災害に強い豊かな社会を築くことを目的としたシステムです。今回は、そのシステムのアイディアを募集してコンペティションを行い、システムの実現と普及、木材利用の意義の啓発、そして防災意識の向上を目指しました。東京木材問屋協同組合の皆様を筆頭に多くの方々に宣伝活動、募集活動にご協力をいただき平成30年10月１日から12月28日までの募集期間で、214作品ものアイディアが集まりました。どうもありがとうございました。

作品審査ですが、２回の審査により優秀作品が決定されました。書類審査となる一次審査、そして審査員が集まり実施される最終審査の２つです。木材利用の拡大と災害に強い社会を築くというコンセプトに共感していただき、また、企画自体がユニークで面白いという評価を得て大変豪華な審査員の先生方に参加していただくことになりました。審査員長に都市工学の大家である伊藤滋先生、審査員に被災地支援に積極的に取り組む建築家の坂茂先生と小林博人先生、防災の専門家である渡會清治先生、大木聖子先生、石川永子先生、木材の専門家である古久保英嗣先生と各界を代表するすばらしい先生方です。日本木青連の鈴木興太郎会長（材惣木材株式会社）と川添恵作副会長（デクスウッド宮崎事業協同組合）の

2名が加わり、9名の審査員で審査をしていきます。アイディアコンペティションということもあり、審査基準はとてもシンプルで「木材を有効に活用しているもの」、「平常時と災害発生時の有用性」、「デザイン性」だけです。平成31年1月から一次審査がはじまり51作品が最終審査に残りました。また、応募作品の中に高校生以下の応募が24作品あり、急遽ジュニア部門を作ることになりました。特に宮崎県立都城工業高等学校と宮崎県立小林高等学校は学校をあげて活動していただきたくさんの応募がありました。最終審査会では、それぞれの学校での取り組みを高く評価して審査員長特別賞を授与することになりました。さて、最終審査会では、51作品全てを展示し、作品を見ながら様々な議論が行われました。審査員の専門分野もそれぞれ違うので作品に対する評価もかわってきます。51作品を展示するスペースが十分にとれたことにより、歩きながら自由に活発な議論が行われました。また、すばらしい木質空間で充実した審議ができたことに審査員の先生方からお褒めの言葉をいただきました。木の力を感じることができた最終審査会となったことに私も喜びを感じています。伊藤滋先生と坂茂先生の白熱した議論や、避難所での支援活動経験をもとにした様々な意見、防災頭巾が全く役に立たないという事実（木のヘルメットは防災頭巾より有効）など、聴衆の皆さんも楽しめる、そして日常生活でも役立ち勉強になるお話の数々がありとても有意義な審査会となりました。3時間にわたる充実した審議の結果、ジュニア部門を含めて11作品の入選作品が決定しました。最優秀賞には「蔀戸（しとみど）を活用した防災拠点」、優秀賞には「跳び箱⇒ベビーベッド・オムツ交換台」が選ばれて試作が制作され、令和元年6月22日の日本木青連全国会員愛知大会で披露されます。本システムが実社会に組み込まれる防災システムとして普及することを目指して大会後も各地で試作品の展示を予定しています。

また、今回の趣旨に賛同し後援して頂いた19の団体と企業に訪問し木青連のPRを含め様々な情報交換を行いました。そして、㈱セールスフォース・ドットコム様からの特別協賛により毎日新聞全国版カラー15段組でコンペ紹介記事が掲載されました。掲載日はイチローの引退と重なり朝刊が一番売れた日でした。NECソリューションイノベータ㈱様、㈱コトブキ様からも協賛を頂き最優秀賞、優秀賞の試作が実現できました。今回のコンペティション開催により、木のぬくもりにあふれ、さらに災害にも強い豊かな街づくりに向け一歩前進ができました。また、私自身たくさんの「知る学ぶ」があっただけではなく、多くの方々に木材利用の啓発と木青連のPRができました。

そして、令和元年度、第2回ウッドトランスフォームシステムコンペティションが開催されることが決まりました。以下、特設サイトに最新ニュースを掲載していきますので、是非皆様アクセスしてみてください。今回、ここで掲載できなかった優秀作品も以下サイトからアクセスできます。参考にしていただき、さらにすばらしいアイディアの応募をお待ちしております。

＜ウッドトランスフォームシステムコンペティション特設サイト＞

https://wtsc.mokusei.net/

渡會清治先生

大木聖子先生と石川永子先生

坂茂先生

坂茂先生と小林博人先生

集合写真

伊藤滋先生

株式会社セールスフォース・ドットコム
専務執行役員 伊藤孝氏

平成30年度鈴木興太郎会長

審査会風景

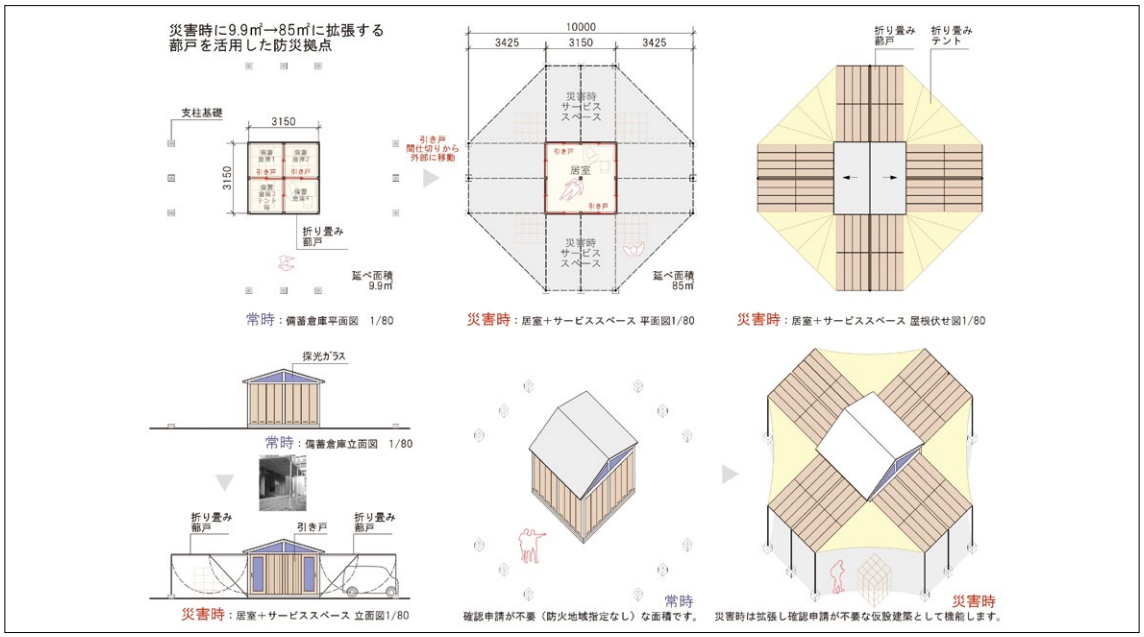
審査会風景

審査会風景

審査会風景

最優秀賞　蔀戸を活用した防災拠点

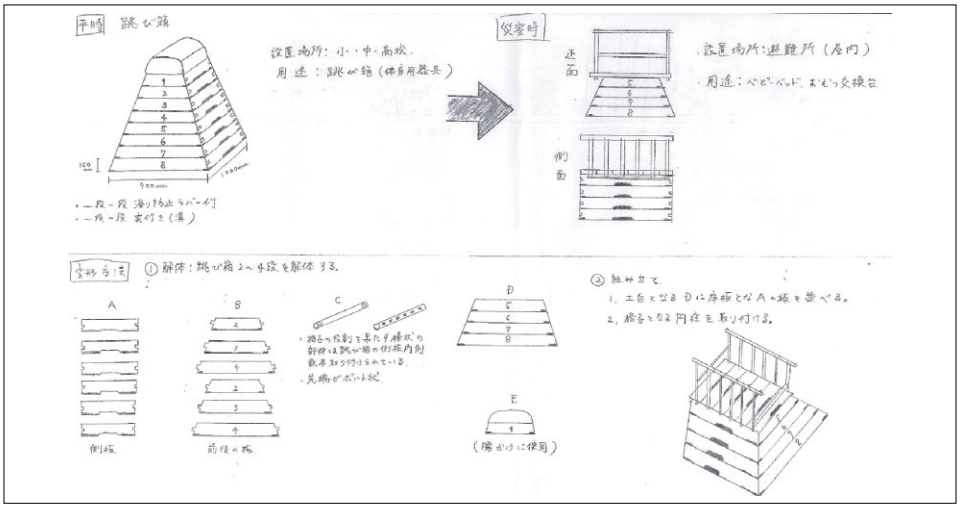
毛塚 順次 様



作品概要　常時は、9.9m²の備蓄倉庫として活用します。この面積は、防火地域指定がなければ確認申請が不要で簡単に建てることができます。外壁の四面が折り畳み式の蔀戸でできており、庇として伸ばすことができます。テントスペースも加えると85m²に拡張します。災害時の仮設建築に確認申請は不要です。常時は、小さな防災倉庫として街に存在し、災害時は大きな防災拠点に変えることができます。

優秀賞　　跳び箱⇒ベビーベッド・オムツ交換台

小柳 文亮 様（チーム名：株式会社宮盛）



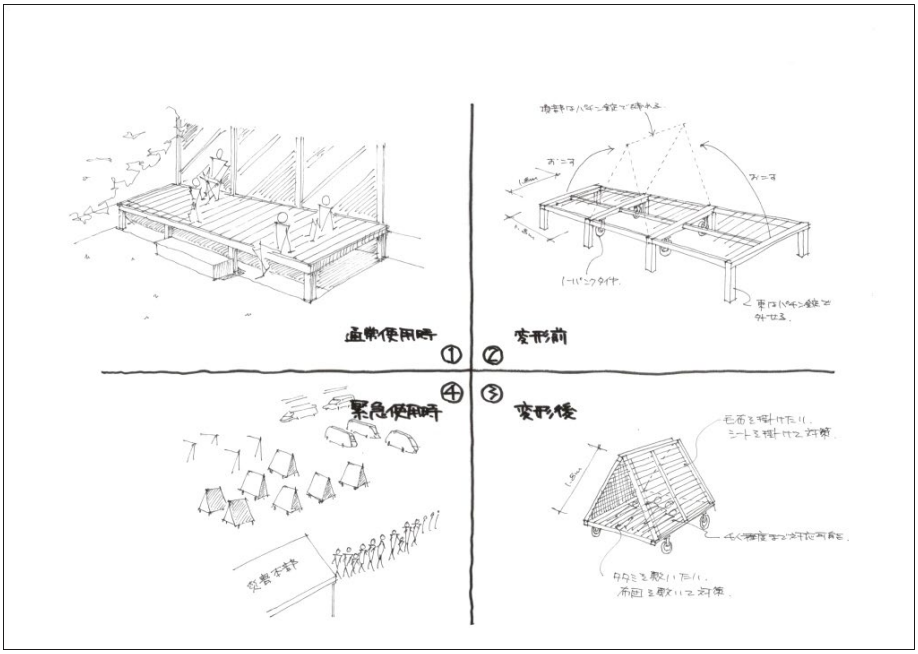
作品概要　平時は体育の授業で使用する「跳び箱」、災害時はベビーベッド・オムツ交換台へ変形します。

【特徴】

○跳び箱一段一段にスベリ防止ラバーが付いているので、（災害が地震の場合）余震にも対応します。
○変形時の組み立てを楽にする溝（実）が付いています。
○解体する箇所が多くない為、体力の消耗を抑えられます。
○床からの高さを設けることで、体温の低下を抑えられます。
○解体⇒組立完了後に余ったパーツを他の目的に使用出来ます。
○日頃屋内にあるため劣化しにくい。

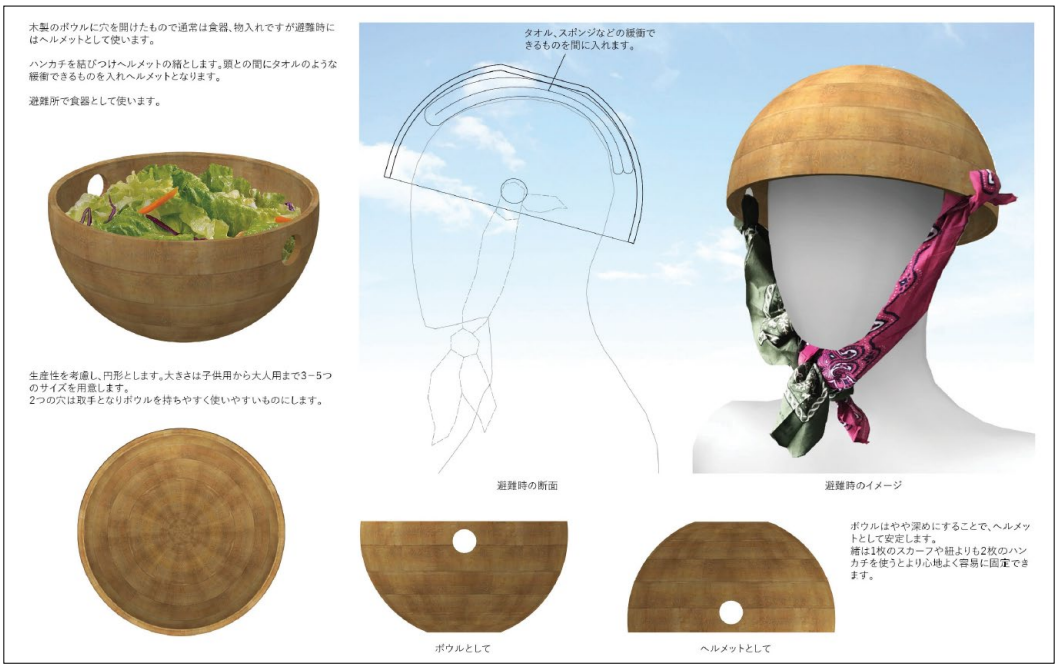
災害時に避難所として学校が使用されるケースが多い点から、設置場所を学校（屋内）と決めたうえで立案しました。
また、私自身小さな子を持つ親として、小さな子の為に何か役立つアイテムは無いかと考え、今回のアイデアとなりました。

セールスフォース・ドットコム賞　　ムービングデッキ
野路 敏之 様



作品概要　普段はウッドデッキとして利用しながらも、災害時には応急的住居として使用。家屋が地震により倒壊の恐れがある場合は安全な場所に移動して設営し雨露をしのぐ。素材が木のためこのまま寝そべってもよいし、余裕があれば毛布や畳などを持ち込むこともできる。タイヤの高さが地上より浮いているので、雨や夜露で浸水することもない。骨組みは丈夫なので、上に布団を掛けてからシートで覆えば多少の防寒対策はできる。基本は1.8m×1.8mのパネル3枚を折り畳み使用し、大人2人+子供2人程度が使用できる想定。デッキの形状などにより変わる。タイヤがついているので避難所の近くにそのまま移動することも可能。避難所に入れない場合などは、その近くで生活することもできる。長期間の生活は無理だが、時期にもよるが数日程度であれば就寝場所として活用できる。変形後も特に支障がなければ、また元の姿に戻して再利用も可能。

日本木材青壮年団体連合会会長賞　　木製ボウル兼ヘルメット
鹿子島 寛 様（チーム名：ドローイングヘッズ）



作品概要　ヘルメットが備えてある家庭は増えていると思われる。しかし、来客用までのヘルメットは用意されていないであろう。頭を守ることの重要性は言うまでもない。昔の子供の遊びをヒントにしている。